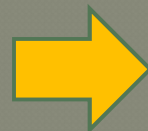


NPO法人 さくら・車いすプロジェクト



さくらの技術支援で製作された車いすは、
このような現実を生んだ。

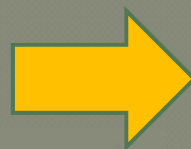
困いの中で自分では
動かせない



自分で動かせ、元気
な顔に



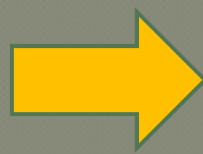
それまでは兄の腕
の中で移動。



自分で動けるよう
になった。



スリッパを手にも履いていた頃。

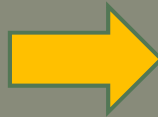


地面ではなく顔を見て生活できるようになった。





車いすがない頃は、手を足代わりに移動していた。



現在、障害者スポーツのリーダーとして活躍している。

身体にあった車いすは
様々な場で笑顔を生み出した。





現実の変化は、2008年・パキスタンに
車いす交付制度制定を生み出した。



SAKURA の車いす

- しかし、手動車いすを利用できない重度障害者は、電動車椅子が必要であった。
- 日本では不要になった電動車椅子が毎年数千台でる、それを集めて提供したら・・・

【さくら車いすプロジェクト概要】

- 修理できないと使えなくなるので、修理とフィッティング技術も提供する。
- それは「日本車椅子シーティング協会」が現地の障がい当事者達に伝承し、普及へのインフラを整える。
- その技術を彼らの仕事につなげたい。
- 将来、南アジアにおける車いす技術発信の拠点を目指す。

初めてのコンテナ積み込み

2011. 7. 21



到着した53台の電動車いす



基礎セミナー 修理技術とフィッティング





実習・分解清掃から。





整備され、受け取った方々



提供ユーザー宅、訪問 ラホール (2015.5)



さくら・車いすプロジェクト 交流会

提供先：ラホール、イスラマバード、カラチ代表来訪

2015.9.5 浅草観光センター

